

# 七 二 九 八 九 九 九

「地域看護センター構想」現地視察ツアー 6月1日(金)

## 地域包括ケアの実現を可能にする 「地域看護センター構想」の実践に学ぶ



GHわいわい白州 外観

法人だんだん会の視察ツアーを開催した。

今回はだんだん会の取り組みを現地で体感いたくだけではなく、2日目には理事長 宮崎和加子氏プロデュースによる北杜市満喫ツアーも開催。まさに学びと観光がセットされた満喫ツアーとなつていています。

視察当日は快晴に恵まれ、目の前に広がる八ヶ岳・南アルプスの雄大な景色に心踊る中、会場となるGHわいわい白州へ全国から多くの参加者が訪れた。



宮崎 和加子 氏

山梨県の中央に広がる甲府盆地の北西部に位置し、都心から車で2時間程度というアクセスのよさで、年間を通じ観光客が多い山梨県北杜市。定年退職者を中心に、「移住したい街」としても常に高い人気を誇る自然豊かなこの街で、「最後まで自分らしく生きる」をモットーに事業を展開している、一般社団

HMS 代表田中の軽快な挨拶、そして「ようこそおいでく

ださいました!」と宮崎氏から大歓迎を受け、参加者一人ひとりに自己紹介をいただいた後、講演がスタートした。

初めに、地域包括ケアを実現させるためには、地域に求められる優れたプロの看護介護集団づくりが大切で、専門職であることを常に意識しつゝ、医療一チームが高く、看取りまで視野にいた重度者への対応から、元気高齢者・独居者等を巻き込んだ住民一体型の地域づくりを展開していくことの重要性を説く。認知症対策においては、「GHわいわい白州」(平成17年4月入居開始)を実例に掲げ、ここはオープントリニティで同時に満員で現在は15名の待機者があるが、ある意味GHに入れる方は幸せで、地域にはGHに入れない大変な方たちが大勢いることを痛感。こうした住民に対して、お金がなくとも支援可能な方法を模索しており、その実現のためには看護師の協力が不可欠という。氏は実例を用いながら、例え認知症や癌、人工呼吸器をつけていても、本人が如何なる状態であっても、豊かに生ききるために支援―すなわち、在宅限界を高め、最後まで

と言及した。

生存の保障にとどまらず地域内支援力を高め、生活の中で専門分野を駆使することで、本当に生きること・本人が主体的に生きることを考えれば医療はオプションにすぎない。医療メインではなく、自立支援によりその方が「生き生きと生きる」ためのヒントを示唆した。最後は、氏が北杜市へ単身移住し、この地域に足りないサービスで自分が出来る仕事をやりたいと、奮起して『だんだん会』を発足させた経緯や、GHわいわい白州の建築設計・デザイン、そしてケーブルテレビにわかれ施設内見学へ。

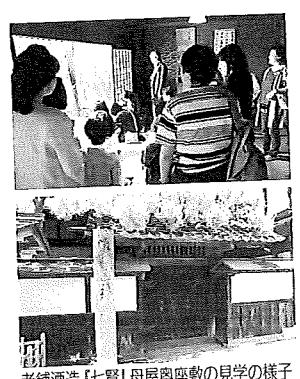
ア実践について説明した後、2人でGHわいわい白州の見学へ。北は八ヶ岳、東は茅ヶ岳、南は甲斐駒ヶ岳に囲まれた抜群の眺

家で生活できるための支援の大切さを忠実に語った。氏は「本質は形だけでなく中身」であり、加者はペランダに出て、自然の空

間にほつと息ついていた。

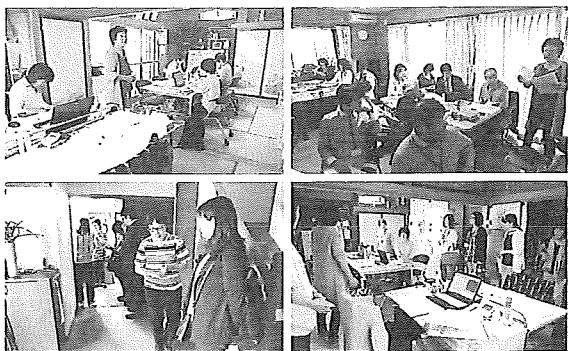


統いて、宮崎氏の提案により、老舗酒蔵「七賢」へ移動し、明治13年明治天皇が山梨へご巡幸の際「行材所」に指定され1

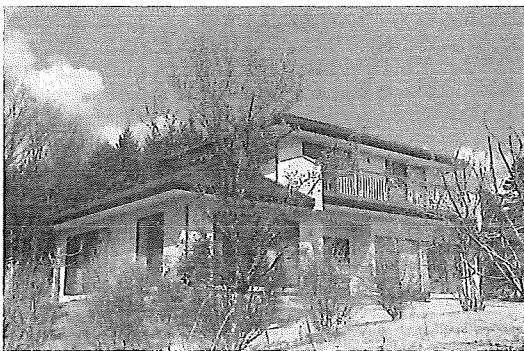


創業寛延3年(1750年)の老舗酒蔵「七賢」へ移動し、明治13年明治天皇が山梨へご巡幸の際「行材所」に指定され1

泊されたという、北原家母屋奥座敷を特別に内覧させて頂いた後、昼食へ。試飲も出来るといふことで皆、おいしいお酒を一口。甘酒が特においしく、購入された方も多かつた。



宮崎氏の講演のと本部内の見学の様子



だんだん会 本部外観

昼食後は地域看護センターあんあん移動。到着後すぐに「自ら暮らしを支える地域看護センターを全国各地に」をテーマに講演した。あんあんでは「自分らしく生きる人生を応援するために最高の支援をすること」を法人の目標・使命とし、そのための6つの支援内容を掲げた。現在、あんあんでは利用者数56名（9か月間で）、在宅死亡率80%、看護師5名を誇る。氏はこれまで取り組んできた看取りの実例を紹介。多くの困難事例に基づき、現場での様々なエピソード（要支援者など虚弱で一人暮らしが困難な方から、人工呼吸器使用の方、更に終末期の方まで。宿泊可能でしかも住民主体のサロン活動などをリアルに語り、参加者は皆、真剣に聞き入っていた。続いて定期巡回サービスでなく24（平成29年10月開設）の概要へ。『大好きな北杜で最後まで自分らしく自宅で安心して暮らし続けていくためにヘルパー・看護師が24時間365日、毎日1日複数回訪問し手伝う』として、独自に「看護強化タイプ」と命名したサービス内容を詳細に説明した。氏は介護中心と

分らしく生きる人生を応援するためには、利用者数56名（9か月間で）、在宅死亡率80%、看護師5名を誇る。氏はこれまで取り組んできた看取りの実例を紹介。多くの困難事例に基づき、現場での様々なエピソード（要支援者など虚弱で一人暮らしが困難な方から、人工呼吸器使用の方、更に終末期の方まで。宿泊可能でしかも住民主体のサロン活動などをリアルに語り、参加者は皆、真剣に聞き入っていた。続いて定期巡回サービスでなく24（平成29年10月開設）の概要へ。『大好きな北杜で最後まで自分らしく自宅で安心して暮らし続けていくためにヘルパー・看護師が24時間365日、毎日1日複数回訪問し手伝う』として、独自に「看護強化タイプ」と命名したサービス内容を詳細に説明した。氏は介護中心と

なっている定期巡回・随時対応サービスの現在の制度設計の不備を指摘し、本サービスにより看護職がしっかりと動ける仕組みの必要性を説いた。またオペレーターに関する人材配置の問題や、随時対応で使用している助成金を活用したオペレーションシステム導入とその仕組み等を

丁寧に紹介した。訪問は一人の利用者に1日2回から4回、7時30分～21時まで。勤務表を掲げ、同時に複数名の利用者が訪問が可能となる職員配置や時間など、工夫を凝らしながら細かい訪問対応をしている旨を説明した。

施設内見学後は、参加者全員で夜の懇親会場へと移動し、牡蠣専門店でのおいしい料理に舌鼓。氏を囲んで更に多くのお客様が、時間忘れ、楽しいひとときを過ごした。

元気と勇気をもらいました」等

のたくさんの喜びの声が響く。宮崎氏は「2日間しゃべりっぱなしで疲れたわ」と笑いながら言。しかし遠方からこうして北杜まで来てくれた皆さんに感謝いっぱいですと、最後は笑顔で、元気いっぱいの言葉を頂きながら、ツアーは無事終了した。

（文／小池 環）

構想』計画を紹介し、来春オーブンを目指すと笑みを浮かべる。



宮崎氏のガイドのもと、満喫ツアーで観光を楽しむ参加者



だんだん会本部の前で全員で記念写真

翌日も素晴らしい天候に恵まれ、北杜市満喫ツアーにて、宮

崎氏のアテンダントもバスで市内観光へ。美しい自然の中で、雑貨やステンドグラス、絨毯専門店等、氏の選りすぐりのショップを巡り、また、平山郁夫シルク

ロード記念館では名作シルクロードシリーズに酔いしれた。この2日間を通して参加者からは「参加して本当によかった」「先生に

# VisionとStrategy 医療・福祉経営の新時代と人財を創る 戦略

私のVisionと経営戦略

産業医科大学 医学部 公衆衛生学教室 教授 松田 晋哉 氏

特集

## 「外国人介護留学生の受け入れと 日本語教育を探る」

～増加する外国人介護留学生に日本語学校の整備促進策を考える～

医療福祉経営最前線

社会福祉法人あかね  
(兵庫県尼崎市)

HMSセミナー集

2018 8

保健 医療 福祉サービス研究会